生と死を結ぶ宗教という物語
―浄土真宗をフィールドとした調査からの一報告―

川島大輔
京都大学大学院教育学研究科
D.Kawashima@edu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

日本心理学会第70回大会　WS020

はじめに

- ターミナルケア, 尊厳死など

…高齢者の死を巡る問題についての議論の活発化

- 古来より死の問題への解決策として，死後の理想世界という物語を提供してきた宗教に対する期待

✓ 理想世界がどのようなものであるか？

✓ 意味づけのヴァリエーションは？

✓ その意味づけの担う機能は？

死の恐怖と死後の理想世界

- 人間にとって何より恐ろしいのは，死によって，今持っている「この自分」の意識が，なくなってしまうこと（岸本，1973）
- → 死の後も天国あるいは極楽浄土において自らが存在し続ける（象徴的不死・自己の連続性）という物語を提供することで，この恐怖を緩和
  - ✓ 死後の世界に対する信念や積極的受容が，死の恐怖と負の相関(e.g. 金児，1995；河合・下仲・中里，1996)
  - ➢ 死後の理想世界という物語の担う最も顕著な機能の一つ

また会える

- より重要なものは，自己と他者との関係性を紡ぐこと？
  - *「お前があの世に行く時には僕が迎えに来る。しかしもしそれに気づかずに迎えにこなかったなら，天国の入り口から入って一番後ろの端の席にいる自分を探してくれ。子どもたちの最後には二人で迎えに行こう。」「主人はこの席で私を待っていてくれるんです。天国という所は，こんな所なのでしょうか。私はもっと楽しい所，いや，もっとにぎやかな所だと思っていましたが……。でも主人が待っていてくれる所なら，どんな所でもいいのです。」（高木，2001：16-18）*

死者と生者を結ぶ

- 「また会える。」あるいは「待っていてくれる。」という意味づけ
  - ✓ 死に逝くものと遺されるものにとって非常に大きな意味を持つ

- 物語の死者と生者を結ぶ機能については、これまでほとんど検討されてきていない

物語とは何か

- 物語とは「文化の物語を原典にして，それを引用しながら，私ヴァージョンに語りなおす作業（やまだ，2006　pp.46）」
  - 死に直面した際には宗教や倫理の物語などの「聖なる物語」が多く語られる
  - やまだとその同僚による一連の研究（やまだ，2000；2006，やまだ・他，1999，2000）
  - ･･･ヒーローや友人の死という出来事によって断絶された自己と他者との関係性がどのように再構築されるのかを精緻に分析し，死者と生者を結ぶ「物語」の重要性を示唆

問い

- 死後の理想世界という物語が死者と生者をどのように結びつけるのか？
- 宗教が死後の理想世界という物語にどのように組み込まれることで，その機能を果たすのか ？

浄土真宗僧侶への調査

- 質的研究では特徴的で典型的なサンプリングを実施することが必要（能智，2004）
  - 数年にわたるフィールドワーク
  - 西方極楽浄土の思想を通じ日本人の心性に深く影響
  - 宗教的関りの中核的要素の一つが，浄土で再び見えることへの確信を意味する「倶会一処」である（川島，2003）

- インタビューガイドを用いた半構造化インタビュー
  - インタビューガイドのうち，とくに「身近な他者との死別体験」，「自己の死の意味づけ」そして「自己の死が他者にとってもつ意味」に関する質問への返答が中心
  - 「これまで身近な人を亡くされた経験はありますか？そのときのことを詳しくお聞かせ願えますか？」，「死後の世界，あるいは浄土や極楽についてはどのように思われますか？」，「ご自身の死というものが，残されたものにとってどのような意味をもつと思いますか？」

分析手順

1. 1次データの作成･･･録音された内容をテクスト、即ち文字記録に変換する作業
2. 2次データへの加工･･･1次データから意味の語幹単位ごとに区切りをつける
3. カード化･･･死者と生者の関係性あるいは倶会一処そのものに言及する語りを抽出し，カードに変換
4. 図解化

死者と生者との物語の共有 語り１

先立ったものとの関わり 語り２

自己の死にかかわる倶会一処の多様な意味づけ

語り３

語り４

遺されるものへの関わり 語り５

困難な現状

語り６

結果と考察

- 5つの意味のまとまり
  - 「死者と生者との物語の共有」
  - 「先立ったものとの関わり」
  - 「自己の死にかかわる倶会一処の多様な意味づけ」
  - 「遺されるものへの関わり」
  - 「困難な現状」

語り１

Ｊ；　あれ，悲しいと思うのは，やっぱり，ほんまに別れてまうと思ってるんでしょうね。

Ｋ；　あー，そうですよね。

Ｊ；　うん。で，還ってくる世界がもう確信できたら，また出会える世界があるということでしょ。あの，阿弥陀経ん中に，あのー，倶会一処という言葉しっとってですね。あれと一緒。ともに一つのところで出会えるということが書いとん。悲しいけども，その悲しみがそれを，そんなものやなしに，先に，わーと沸いて出てしまうことはないね。

死者と生者との物語の共有

- 浄土で再び会おうという言葉は，念仏をいただいたもの同士の合言葉
  - 倶会一処
- 死は永遠の別れではなく，再び会えるものであるとの意味づけによって，悲しみに囚われることがない
- 「先立ったものとの関わり」，「自己の死にかかわる倶会一処の多様な意味づけ」，「遺されるものへの関わり」の根拠となる語り

語り２

C； お念仏唱えて，みんなにお世話になった言うて，喜んで，まああの，お浄土へ参らせてもらえた。死んでいったし。その，悲しかったけども，やっぱりねー，ええ。まあそういう意味では，ま，お念仏のねー，お陰でこちらもね，悲しかったけども，まあまあまあ。（略）だけどもね，お浄土へ向かえてもろてることには間違いないさかい，そのことが一番，あの，安心で，そない心配は何もしなかったですからね。せんで良かったですから。

先立ったものとの関わり

- もっとも典型的な物語の語り直し
- 亡くなっていくものも，遺されるものもともに念仏を唱える中，喜んで浄土に参らせてもらい，さらにそれにより往生浄土は間違いなく，安心できる
  - この語りは多くの対象者において繰り返し語られる
- ⇔　また会えると思えないとの語りもあった
  - 往生浄土への確信が得られることによって両親の死を良かった･･･往生への確信が必ずしも浄土で再び出会えるという意味づけを導くとは限らない

語り３

Ｇ；　私が死んだら後は仏さんに任せてとさっきから言ってましたけども，後は阿弥陀経のなかに書いてあるようなああいうとこで安穏に，何も考えんとおんのかなーと思いますね。

Ｋ；　なるほどー。その，阿弥陀経のなかでも，お浄土に還るっていいますか，そういう面もありますよね。そういう面と先に往かれた方にまた会える世界，共に一緒に会えるというー

Ｇ；　ええ，そういうことになってんので，それはもう，そこにまた先に往ったやつが待ってんのかなと，ふっふ。

自己の死にかかわる倶会一処の多様な意味づけ

- 倶会一処を自らの死について採用
  - 自らが死んだ後は先立った家族や友人にまた会えるという意味づけ
- 発達の経路
  - 肉親の死への直面
  - ･･･知識としての往生浄土・倶会一処と体験の不一致
  - 年齢を重ねることで一致するようになっていく

語り４

Ｈ：　いや，　やっぱりあの一そうしておれば必然的に，　お浄土，　まあ仏となる同体の悟りを開かしてもらうんだと。言うこと。そうすればその世界では所謂表現すれば会うちゅうんかね，　一つになっていく。そういう，　往ったら仏，　形になんとかに囚われる，　概念だけの問題ですけども，　一つになっていく世界。そこにまあ出会いもあるでしょうし，　うん，　それだと思うんですよ。人間こう形に囚われたり，言葉に惑わされたりしやすいんですけどねー，そっから先はわしは分からんと。

- ともに出会える世界はいわゆる一つの方便
- 死者と生者が深いところでは繋がっている
  - ✓ 倶会一処という聖なる物語の，現代における新しいヴァージョン

語り５

Ｂ；　倶会一処，それがねー，やっぱりその，あってね，誰のときやなー，また会えるやんて言うたことありますねん，私。ほんまに言うたことあるんですよー。また会えるやんって言うて，うん。

Ｋ；　ああー。

Ｂ；　そやそやそや，弟や。弟の嫁が死んだときや。うん。弟の嫁が死んだときやね。弟に言いました，うん。また会えるやんて。そういうことが言えるようになるんですなー，うん。これ他の人が聞いたら，何を言ってはるねんなー，んな夢みたいな話。会えるか会えんか分からんのに。ねえ，うん。

遺されるものへの関わり

- 浄土でともに出会えるという意味づけによって，先立ったもの，そして死に逝く自らを結ぶ
  - 自らの死後に遺されるものをも結ぶ

⇔　先に往って待っているという語りは直接的には現在の家族に語らず，日ごろのお勤めや行いを通じて暗黙のうちに感じ取ってくれている

語り６

H; まあそういう機会が，みな入院してね，亡くなっていくんでね。だから家で死ぬるちゅう姿が，いま亡くなったいうことは子どもに対しても，孫に対してもね，非常にこう隔絶された環境ですねー。みーんな家で死んで，遺体をとりこんで泣いたもんやけどねー。それがなくなりましたねー。

困難な現状

- 「ともに出会える」という意味づけが成就することの難しさ
  - 死に触れる機会や物語を共有する機会が減ってきている

まとめ

- 往生浄土の物語は必ずしも倶会一処の物語と結びつけられない
  - ✓ 先立ったものの往生浄土を確信する一方でまた会えるとは思うことはない語り
  - ✓ 往生浄土と倶会一処の物語を新しいヴァージョンに作り直していた語り
- 先立ったものとの関わり　⇔　遺されるものへの関わり
- 物語の発達経路

ご清聴
ありがとうございました。